

平成28年度 事業報告

(平成28年4月1日～平成29年3月31日)

○障害事業

・四日市地域

～あおぞらワーク～

◎目標

個々と全体のニーズを把握しながら柔軟なプログラムを展開することで、利用者自らの課題の取り決めや目標設定が出来るよう主体性を育みます。

一人一人が過ごしやすい事業所を確立し、「ここを利用したい」と思ってもらえる様、幅広い対応力をアピールしながら定期的な営業展開を行い、利用者獲得につなげます。

28年度開所の自立訓練事業をもとに、退院促進及び地域移行の役割を果たす法人の窓口的事业所を目指します。

◎報告

外出支援などの余暇活動、個々の能力に合わせた生産活動等、様々な取り組みを行いました。自立訓練事業は満床まで期間がかかりましたが、取り組み内容としては日常生活の向上につながる支援が出来、受入・送り出し機関としての役割は果たせました。今後の課題としては、4つの事業を行っているため、情報の共有、連携意識を高めて、質の高い支援を行うことです。

～みのり工房～

◎目標

利用者の主体性を伸ばし個々の希望する到達点へ達する様、支援力の向上を図ります。また、行政、病院、企業ともに密な情報共有、連携をして、利用者ひとり一人にいろんな選択肢を提供し、「みのり工房に通所するといろんなことが選択出来、一般就労もできる」を更に定着できるように利用者の獲得にも力をいれます。

◎報告

就労移行事業の役目として、28年度は3名を一般就労に送り出せました。新規利用者の受け入れも13名と、多くの方の利用をいただきました。ただ、グループワークなどの取り組みをしていましたが、古くから利用されている方との協調（障害特性も最近は精神障害より知的障害が多い）が今後の課題となりました。さらに就労移行事業は利用期間が2年間と期限があるため、安定した利用者確保をしていくことです。

～コミュニティーハウス オレゴン・ゆったりクラブ～

◎目標

気軽に立ち寄れて、居心地良く過ごせる雰囲気づくり、また、幅広いニーズや目的に対応し、地域移行への第1歩となる施設を目指します。

利用者のニーズに合わせ、個々のスケジュールに対応できるように、柔軟にサービス提供を実施していきます。

◎報告

行事ごとでの本人の趣味や特技を発表する機会を提供することで、やりがいを感じてもらえました。さらに、少人数グループでのレクリエーション等を行い、活動への参加意欲を増進しました。課題としては、開所時間のしぼり（6時間未満は減算）があるため、幅のある職員研修が出来ませんでした。

～GH 四季の里～

◎目標

利用者さんにありのままを表現できる環境をつくり、利用者さんの長所と向き合い、その力を引き出せる支援を行います。また、様々なレクリエーションの機会によって、利用者さん同士がふれあい、アットホームな環境をつくり、体調管理にも細心の注意を払い安心して暮らせるグループホームを目指します。

◎報告

川島荘では、味噌汁の提供や夕食サービスなど1階フロアの活用をし、西日野荘では、月に1回の余暇支援を取り組みました。また、川島荘、西日野荘とも月に1回は土曜日に外出支援を取り組みました。課題としては、利用者が高齢化になるものの制度移行（障害事業から介護事業）が出来ない利用者支援の体制作りです。（介護認定が受けれない。または、区分が出ないなど）

～障害者相談支援センターHANA～

◎目標

市町からの委託相談にて、福祉サービスにつながない利用者への発掘、支援をじっくり行っていく、指定特定相談支援（計画相談支援）にて、福祉サービスへつないでいけるような体制を維持していきます。

また指定一般相談支援（地域移行支援）にて、医療機関と連携をしていき、地域への啓発活動をして、長期入院患者の住まいを確保し、社会的入院の解消を図っていきます。

そして地域市民や企業、利用者との交流や、利用者家族との交流の場を設けていき、より地域に根付いた事業所を目指していきます。

今後は上記以外にも基幹相談支援事業所の役割を担っていくため、圏域の特定相談支援事業所や一般相談支援事業所のアドバイザー的な役割や、人材育成の役割を担っていくことになり、専門性の高い役割が求められるため、部署内でレベルの高い研修システムを確立していき、質の高い人材の育成をしていきます。

◎報告

市町（四日市、菰野、川越、朝日）からの相談事業、計画相談、地域移行支援と3つの事業を行っていますが、年度途中より計画相談と委託相談の担当を統合することで動きやすくなりました。平均数値として相談件数 28 件/日、訪問件数 33 件/月、計画相談作成件数 50 件/月でした。他機関との連携や交流は図れていますが、四日市市以外からの連絡もいただいており、全てをフォローすることが出来ておらず、対応の課題として送迎等が残

りました。

・鈴鹿地域

～ブナの森すずか パートナー～

◎目標

平成 29 年度に分場オープン、行動援護事業オープンを目標にしています。分場では「働く生活介護」、行動援護事業は重度障害者の生活の幅を広げることを目指していきます。

今年度は個別ニーズに対応し、さらに細かい支援を行うために、職員間の連携を強化し、知的障害者への理解を深めていきます。また、事業展開を念頭に置いて新任職員、サビ管候補を育成し職員のスキル強化を図っていきます。

◎報告

情報共有の強化を職員間で意識をし、部署会議でも事故が起こった際のリスクマネジメントを随時実施することで、職員の資質向上・事故防止に繋がりました。また、職員の入れ替わりもあったため、年 4 回、法人の心得を全職員で確認しました。感染予防についても徹底した意識管理、施設内清掃、手洗い・うがいの促しなどを行い、インフルエンザの発症はありませんでした。課題としては、職員のやりがいを持続できる体制作りを強化していきます。

～ブナの森すずか～

◎目標

利用者の心身の健康管理と支援を行う事、職員のスキルを向上させる事を目標にしていきます。

年々、利用者の状況変化に適切に対応するため、健康を含めた生活支援を早期に行う事、通所事業所と連携して利用者支援を行う事、職員は課題意識を持って支援に当たる事を方針にして取り組んでいきます。

◎報告

衛生管理、健康管理については、会議などで警鐘することで、年間行えました。通所事業所との合同会議により課題等を明らかにすることが出来、改善につなげることが出来ました。危機管理についても常に意識を持ち、大きな事故はありませんでした。課題としては、職員の入れ替わりも多く、情報周知にムラが出たことです。

・伊勢、志摩地域

～はじまり作業所・ひのき茶屋～（伊勢）

◎目標

就労継続 B 型事業と就労移行事業の連携を強化し、そこから一般就労に向けた推進と就労後のサポートを強化して、事業所として外勤作業の安定化と拡充を図ります。

今年度に事業所を二つに分割し、利用者に対しより行き届いたサービスを提供していきます。

上記の為に、職員の意識向上のために日常のミーティングの内容と運営方法の見直しを図ります。

◎報告

就労移行事業としては、就職セミナーを実施するが、希望者が少なく、結果、就労者は1名のみとなりました。

関係機関との連携、作業メニューの拡充などで、新規利用者は12名あり、作業工賃も大幅に上がりました。また、防災についても地域資源を利用し、様々な取り組みが出来ました。

～杜の作業所～（伊勢）

◎目標

利用者ニーズをしっかりと掴み、適切な支援とサービスを提供し、グループホームとの連携の強化による利用者の拡充と地域への営業を強化していきます。

職員は常に向上意識を持ち、業務遂行に必要なスキルを研修等への積極的な参加を通して、習得していきます。

事故・災害・感染症対策などの充実を図り、対応力を強化していきます。

◎報告

関係機関との連携はしっかり行え、多気町や度会町など8市町から12名の新規利用者の獲得が出来ました。しかし、特別支援学校についてはアピールが不足し、利用者獲得にはいたりませんでした。職員の研修は、支援技術や福祉理解など深い部分までの研修が行えませんでした。大きな災害や事故などはありませんでしたが、インフルエンザの感染があり、今後はより一層、予防対策を強化していきます。

～CH・GH はじまり～（伊勢）

◎目標

1. 感染症や熱中症等の予防体制の強化。健康支援や朝食・夕食支援の充実を図り、利用者の生活形態の向上を推進します。
2. 関連部署と連携し、利用者の生活ニーズにミスマッチはないか、モニタリング等による定期的な修正を図ります。
3. 定期的な防災訓練の実施と緊急対応時のマニュアルの見直しを図ります。
4. OJTや内部、外部研修を通じて、職員のスキルの向上を目指し、利用者対応の向上を図ります。
5. 定員増を目指し51名→58名地域と連携を進めていきます。

◎報告

亡くなった方が出ましたが、前年度に比べ入院する利用者は減り、支援の取り組みは計画に沿って上手く行えています。関連機関とは連携をとることが出来、個別支援計画の見直しもきちんと行えました。防災対策は出来ていましたが、緊急対応時マニュアルの見直しが不十分であった。職員研修は部署内だけでなく外部セミナーなども活用出来ました。1つの拠点を立ち上げ定員を増やしましたが、利用者の確保が計画より遅れてしまい、今後の教訓にいたします。

～相談支援センターよろず～（伊勢）

◎目標

- 1) 一人でも多くの相談の要望に応じていきます。（一般相談）
- 2) 利用者のニーズに沿ったサービス等利用計画表の作成をします。（計画相談）
- 3) 通所者で、28年度のサービス等利用計画表が必要な者の作成を行います。（計画相談）
- 4) より多くの市民に相談支援センターを知ってもらうため、行政や地域との連携を強化します。
- 5) 運営の安定化を図り、計画件数の安定した増加と計画作成の効率化を目指します。

◎報告

- 1) 月平均約142件の相談を受けています。
 - 2) 新規5件を含む月平均約33件を作成しました。
 - 3) 民生委員や障害児教室の担任の会議などに出席をしました。
- 課題として、担当者会議の出席要請や開催の仕方など、効率化を目指すことです。

～PEACE WORKERS～（志摩）

◎目標

今年度は、事業所の安定運営及び事業所移転の計画、実行をします。

新規利用者の獲得のため、A型事業の売上増加（弁当販売数増加と利益率の向上、新規作業の創設など）、B型事業は付加価値の高い作業の導入や外勤作業の回数増加を企業へアプローチしていきます。

◎報告

事業所の移転については、移転先の候補は決まっていますが、29年度の9月頃になる予定です。3事業（A型、B型、生活介護）の特色を生かし利用者ニーズの幅を考え、メニューを作ることができました。課題としては、移転を行った時に、A型事業で行っている弁当販売が終了するため、作業内容の構築をすることです。

～Peace Power House～（志摩）

◎目標

新設のグループホームを計画中で、定員を8名から18名にしていきます。

利用者ニーズに応じた支援、レクや余暇活動の充実を図り、利用者の健康増進、安全・安心な生活の場を提供していきます。

◎報告

志摩地区のGH事業の拠点となる「あみいご」が29年4月に開所しました。その利用者の獲得については、営業、リストの作成などきちんと行えました。日曜日のドライブや買い物支援、また食事会など利用者間の親睦会は好評で、防災訓練についても夜間を想定した訓練も行いました。課題としては地域との交流が少なく、今後は計画をたて、地域理解につとめます。

○介護事業

・福祉事業

～オーロラデイサービス～

◎目標

法人内・外問わず、高齢者の活動の場として、地域から望まれ、利用される方が心身ともに充実し、自分らしく生活できる事業所を目指します。

週に1度の会議で情報の共有を図り、月間6時間程度のスキルアップ研修を行っていきます。

◎報告

会議、研修を通して職員のスキルアップやプログラムの構築は出来ました。ただ、法人外への意識は低かったため、法人内での取り組み(どんぐり保育園や障害事業の祭りなど)の参加や活動にとどまりました。課題としては、祝日の開所時の職員体制が手薄になり、プログラム内容に制限がかかることです。

～ハッピーランプ～

◎目標

質の高い介護サービスが提供できるよう、訪問介護員の確保・育成と体制の確立をし、計画的に職員研修を実施します。(研修については、認知症・ターミナルケア等)

◎報告

職員も20名を超え、研修を行ってはいますが、統一した意識、支援については、29年度も最重要課題として取り組みます。その中で、急に休む職員が数名おり、他の職員へ負担がかかり、職員の勤労意欲、利用者の介護支援に影響が出ました。28年度に大方改善は出来ましたので、事業所、職員が同じ方向を向けるように指導を行っていきます。

・公益事業

～有料老人ホームオーロラ～

◎目標

一般高齢者や障害をもつ高齢者が安心して支援を受けながら生活する住居を提供していきます。また、経済的に他の介護施設を利用困難な高齢者等のセーフティネットの役割を果たしていきます。

◎報告

入居の相談は市町や他機関から頻繁にいただいています。しかし、28年度は20名ほどの方がお亡くなりになり、年間を通じて、入居者推移は70～75名でした。入居者満足度を上げるために、コンビニの注文販売での買い物や、介護事業全体での休日の外出行事などを取り組みました。

～居宅介護支援サービスオーロラ～

◎目標

介護を必要とする人が適切なサービスを利用できるように、本人や家族の要望をう

かがいながら、中立、公平な立場で地域の介護サービスを分かりやすく説明し、利用者の決定を手伝っていく。法人内外の事業所との関係性もしっかり築いていくことで利用者支援をスムーズにしていく。

◎報告

有料老人ホームと連携しながら、入居相談や新規入居者の計画など年間を通じて行えました。また、関連機関との密な調整を行うことで、大きなトラブルもありませんでした。ケアマネ1人に対して持てる件数が決まっているため、収支は厳しいですが介護事業全体として、プラスになる活動は行えました。

○保育事業

～どんぐり保育園～

◎目標

現在の主任が園長になりますが、今までも現場のことは、現主任が中心になり活動してきたので、今後もより一層、子ども達が楽しい、居心地がいいと感じられるよう日々の保育を大事にし、信頼関係を築いていきます。

方針として、心身ともに健康な体作り、集団生活や遊びの中で、表現する喜びや感情、創造性を育み、家庭・地域と連携を図りながら安心・安全な環境のもと、ともに子育てを進めていきます。

◎報告

年度当初は職員もギリギリで、発達支援園児もいる中、園長と主任も現場に入りながら対応はしてきましたが、保護者対応での一歩踏み込んだ話し合いが出来ませんでした。防災訓練を含む緊急時対応には、毎月の消火訓練や防犯訓練と交通安全教室（南署及び市の「とみまつ隊」が来園）は年3回ずつ開催をしました。ただ未満児（0歳～2歳）で、足の不安定さから転倒で口を切るのが2件と2歳児で肘がぬけるケースがあり、職員配置や環境の見直しなど引き続き注意をしていきます。

以上